

ずいそう

## 我がふるさとの紹介

秋 森 憲 造



## 安芸の宮島

この原稿依頼があったときに、あらためて諸先輩方の記事を拝見し、自分には紹介できる趣味が無く困りました。いくつかの旅行に関する体験記を参考に題材を絞ることにしました。

さて、時間的に遠方に旅行も難しいため身近で有名な宮島にしました（自宅より交通機関で約1時間）。

早速、家内に宮島の弥山(みせん)登山(標高 535 m)の声を掛けると、普段は休日でも仕事が多い私の提案を不審がられてしまいました。

素直に、事情を話すと快く協力してもらいました。

## インバウンドに沸く宮島

身近な有名スポットですが、コロナ渦やその後のインバウンドによる混雑を敬遠し、約10年振りの訪問となります。日曜日、朝一番6時10分の始発バスに乗り込み出発しました。

12月初旬の為、ウインドブレーカにマフラーと完全防備で臨みました。

インバウンドの影響で廿日市市観光公式サイトによると令和5年の年間来島者数は約465万人となっております。昭和40年頃と比較すると約2倍となっております。宮島の人口は約1,400人ですから大変な観光客の増加です。

バス、JRと乗り継ぎフェリー乗り場に向かいました。

宮島口の広島電鉄の駅やフェリー乗り場の建物も10年前に比べ見違えるほど綺麗に整備されていました。

早朝のフェリーも未だ混雑が始まる前でしたが、船内のベンチはほぼ満席の状態でした(写真-1)。

朝焼けの光に照らされて清々しい船内の空気でした。

話によるとフェリーに2時間並んだとか、昼食が行列で食べられず宮島から帰って食べたとか聞いていました。

宮島に着き早速、厳島神社の参道を経て、大鳥居の写真を撮り目的の弥山方向へ歩きました(写真-2)。

運動不足のため、脚力に不安があり当初からロープウェイを利用する計画でした。暖冬の為、途中のみみじ谷の紅葉も12月に入っているのに、きれいに赤く染まっていました。ここまで、インバウンドの混雑も



写真-1 早朝のフェリー



写真-2 大鳥居

回避し完璧な行程でした。

しかし、ロープウェイ乗り場に一番乗りで到着すると、始発は9時からで約一時間待つことになりました。

始発の時間になると、100人以上並び外国人も1/3程度いたでしょうか、集客力に驚きました。

## いざ徒歩で登山

ロープウェイを2台乗り継ぎここからは、いよいよ徒歩で約30分の登山です。無料の竹製の杖を借り開始。

途中に弘法大使が修行につかった火が今ものこる「消えずの火」(写真-3)を見学しました。

ロープウェイのパフレットによると1,200年以上も燃え続けている有難い火で、広島平和記念公園の「平和の灯火」の元火にもなっているとのこと。

弘法大使・空海は遣唐使の使命を終え京の都に帰る途中、弥山へ立ち寄り、護摩を焚いて100日間に及ぶ



写真一三 消えずの火



写真一六 海上かき小屋



写真一四 弥山山頂



写真一七 炭火焼・特選カキ



写真一五 山頂からの景色

修行に使った火が「消えずの火」とのことです。

軽い気持ちで弥山登山を始めましたが、歴史に触れ子供のころからよく訪れた宮島の再発見となりました。

気持ちを切り替え、登山を続け息も徐々に荒くなりながらラストスパート。途中の行き交う方々の気持ちの良い挨拶も新鮮で無地に目的の弥山山頂に到着しました。

山頂からの景色は瀬戸内海の島々や遠くに広島街や、海がきれいで、まさに多島美の絶景ポイントです(写真一四、五)。

山頂での記念撮影を終え、今度はくんだり道です。

足元に注意しながら、ゆっくり下山しました。混雑が始まった商店街は飲食店も行列で大変です。

名物のにぎり天をテイクアウトしフェリーで帰路に。

宮島口のフェリー乗り場も今から宮島に向かう人で混雑しており早朝からスタートして大正解でした。

## 広島名物の昼食

昼食は、家内がリサーチした地元の水産業者さんが経営する、かき小屋に決めていました。

フェリー乗り場から徒歩15分程度のところでした。

途中、ヒルトンホテルの工事現場を横目に到着。

店内は、有名人のサイン色紙が多数飾られ活気が有り賑わっていました。室内と海上いかだを選べたので迷わず海上いかだで、炭火焼の新鮮なカキを堪能(写真一六、七)。

まだ暖冬の12月に潮風を感じ、パチパチと炭火で特選カキをいただきました。記事のネタ作りの日帰り宮島・弥山登山でしたが、久しぶりに夫婦で出かけ大満足の散策でした。

最近、インバウンドで大混雑していますが、我がふるさとにある、世界遺産・日本三景の名所です。早朝の行程でしたら、充実した体験となることと思います。是非、いかがでしょうか。